

春らんまん。市内各所で花やぐ個性豊かな桜たち

約600あるといわれる桜の品種。大分市内でも、幾重にも重なりふんわりとした花びらが特徴的な「ボタンザクラ」や、白色で淡い香りを放つ「オオシマザクラ」など、さまざまな種類の桜を見ることが出来ます。中でも一番多く見られるのが江戸時代末期に作られたと伝えられる「ソメイヨシノ」。接ぎ木で増やしているので、気温などの気象条件が同じであれば開花時期も同じであるという性質をもち、比較しやすいことから「桜前線」を予想するための品種にもなっています。

川沿いを散歩しながら桜を觀賞できる平和市民公園や、ボタンザクラが咲き乱れ丘巻の景色を楽しむことができる一心寺など、大分市内には桜の名所が数多くありますが、下白木から田ノ浦までの区間に珍しい桜のスポットがあるのをご存知ですか？旧国道沿いに、「ウミネコザクラ」が約300本植えられています。この桜並木は別大国道の6車線化と大分市誕生100年にあわせて、平成25年に完成しました。見頃は4月上旬～中旬で、潮風に強く小さな白い花を咲かせます。海と山が一体となった風景街道として、また他とは違った風情が楽しめます。

気になる桜の開花時期
花が咲くのに必要な「冬の寒さ」

花見のシーズンになると、今か今かと急かせるように、開花予想や満開時期など、桜の開花に関する情報がメディアで取り上げられます。そんな中、私たちが住む九州よりも関東地方の開花が早いという報道に「こっちの方が気温が暖かいのに、なんで？」と疑問を持ったことはありませんか？

実は、桜の開花には「春の暖かさ」だけでなく、「冬の寒さ」も大きく関係します。夏に葉で作られた開花抑制ホルモンが、秋になると花芽に蓄えられ、桜は休眠状態になります。冬の寒さにより、開花抑制ホルモンは少しずつ分解され、春が近づき気温が上昇すると今度は開花促進ホルモンが作られ、一気に桜が開花します。寒ければ寒いほど、開花抑制ホルモンの分解が進み、また春の暖かさへの感度も高くなるので、桜の開花が早まるのです。昨シーズンは暖冬だったため、桜の開花が遅く満開になったのは4月上旬ごろでした。今年の冬は全国的にとっても寒かったため、桜の開花が早まるかもしれませんね。

「春よこい、早くこい」。待ち遠しい、桜満開の春…。今年は桜とともに、どんな春の思い出ができるのか、考えるだけでも心踊ります。



大野川右岸緑地



七瀬川自然公園

清らかな水が流れる自然豊かな公園。お弁当を持ったグループや公園内を散策する家族連れなど、桜が咲き誇る芝生広場は、毎年多くの人でにぎわいます。



田ノ浦海岸線



関埼灯台

明治34年に設置・点灯された、県内最古の灯台。灯台の白さに桜のピンクが映え、訪れた人を楽しませます。



平和市民公園

市民の憩いの場として親しまれている平和市民公園。裏川沿いには約1kmにわたって800本以上のソメイヨシノやボタンザクラが植えられています。



武漢の森

OITA CITY SAKURA

市内各所で撮影した桜の風景を市公式動画チャンネルで公開しています。空撮映像を使い、普段とは違った角度から華麗に咲く桜を楽しむことができます。ぜひご覧ください。